第５９回広島県小学校教育研究会健康教育部会研究大会

令和４年１２月６日（火）
広島市西区民文化センター

小学校における保健教育・安全教育・食育に関する専門性を高め，健康教育の推進を図ることを趣意とし，「健康教育の組織的取組の充実をめざして」を研究テーマに，第５９回研究大会を開催いたしました。新型コロナウイルスの流行により３年ぶりの開催となりましたが，県内各地より１８１名の参加のもと，有意義な研究大会となりました。

【講演】
「顔のある食事＝手料理と“心の空腹感”」　－子どもの声なき声－

講師　株式会社オフィス弁当の日　代表取締役　竹下和男

昭和 24 年香川県生まれ
香川県の小中学校勤務ののち，教育委員会で勤務。その後校長を歴任し食育を推進。

非認知能力を育成することの大切さ，その過程で保護者や学校をはじめとする社会の果たす役割の重要性と，非認知能力の育成のために実際に取り組まれた「お弁当の日」の効果についてご講演いただきました。

１．非認知能力とは
非認知能力とは，他者とコミュニケーションをとりながら協力したり，創意・工夫したりすること，勤勉さ・奉仕の気持ち・忍耐強さなどがある。それらを育てるためには自然体験・社会体験・生活体験が大切であると文科省は訴えている。これらの能力を育成することで，子どもの将来的な幸せにつながっていく。ここ数年，新型コロナウイルス感染症の流行により，学校や社会では新しい生活様式が定着しつつあるが，その陰で多くの非認知能力を育む行事が削られ，偏差値やＩＱなど目に見える認知能力の育成に偏ることとなった。

２．子どもの心身の成長に不可欠な非認知能力
子どもの心身が健やかに成長するための３つの時間ある。１つめは「まなびの時間」である。これは認知能力の育成につながる。２つめは地域における「あそびの時間」，３つめは家庭での衣食住にかかわる「くらしの時間」である。２つめと３つめは非認知能力の育成につながる。特に，３つめの「くらしの時間」はすべてにおける基礎と言え，基礎ができて初めて地域の中で「あそびの時間」を持つことができる。そして，それらが学校でのまなびの時間につながる。今，日本で仕事・塾などで家族がバラバラに過ごすなど，あそび・くらしの時間が揺らいでいる。小学生や中学生の不登校の人数は過去最多となっており，非認知能力の育成は急務となっているが，十分とは言えない。

３．変化する現代社会と家族の在り方
「ごはんとみそ汁の朝食を家族全員分作れるか」というアンケートに対し，できると答えた小学生~高校生は１％程度である。
哺乳類の出産数は少ないが，少ない子どもを大人になるまで親の保護の元で育てることで繁栄してきた。言い換えれば，人間はわが子を育てる能力を持ち，その能力を身に付けることが可能な社会を形成してきたはずである。しかし，アンケートの結果を見ると，未来を担う子どもたちにその能力が身についているとは言えない。くらしやあそびの時間を軽んじてきた私たち大人の責任である。親と子どもの関係はここ数十年大きく変化しており，見直す時期に来ているといえる。

４．「お弁当の日」の取り組みとその効果
家族のためにお手伝いをし，家族がそれを喜んでくれる体験は非認知能力の育成につながる。そこで始めたのが「お弁当の日」である。それをお弁当の日は，買い出しから片付けまですべての工程を子どもたち自身で行う。出来上がったお弁当は学校でみんなで食べ，その様子を下級生がしっかり目に焼き付ける。この時にお弁当を作った子どもたちは，大人になっても楽しみながら弁当を作っている。子どもは育てなくても，置かれた環境でたくましく成長していく。親が楽しんで行う姿を見せることで，自然と興味を持ちやりたいと思うようになる。大人は日々成長する自分を子どもたちに見せる必要がある。子どもは大人のそのような部分をしっかり見ている。時代の流れに置いて行かれている大人をしっかり見ている。これから成長する子どもの前に立つために，教師だけではなくすべての大人が成長し続けなければならない。

【実践発表】

「児童が主体的に取り組む安全教育の在り方」

～健康で安全に生活する力を身につけるために～

大竹市・廿日市市教育研究会小学校部会養護教諭部会

大竹市立玖波小学校　養護教諭　植田　知子

廿日市市立廿日市小学校　養護教諭　青野　麻美

【指導助言】　広島県教育委員会事務局　豊かな心と身体育成課健康教育係　指導主事　大名　克英　様

（取組について）

・養護教諭部会で研修した内容を自校の校内研修等で教職員全体に共有することで，組織的・継続的・段階的に安全教育を実践している。

・ヒヤリ・ハット研修では校内で起こった「ヒヤリ」とした体験を共有することで，事故の再発防止及び事故防止に生かされている。

・救急対応シミュレーション研修では危機発生時に誰がどのように動くのかを把握することで，職員の危機意識向上と救急体制の改善につないでいる。

・危険予知トレーニング（ＫＹＴ）研修は，児童が危険を見つける危険予測にとどまらず，危険にあわないためにはどうすれば良いか考え，自ら危機回避する能力の向上に役立っている。

（今後について）

・養護教諭部会の実践は安全教育と安全管理のそれぞれの活動が組織的に行われている。今後も日常的な取組を継続的に取り組んでほしい。

【紙面発表】

「自ら健康課題を見つけ，主体的に健康づくりができる児童の育成」　～生活習慣を基盤とした取組を通して～

神石高原町立神石小学校　養護教諭　重松　博美

教　諭　今岡　信美

【講　評】

広島県教育委員会事務局　豊かな心と身体育成課健康教育係　指導主事　三塩　レナ　様

（取組について）

・「基本的生活習慣の定着」を学校評価の項目に掲げ，関連教科や特別活動を利用し学校教育全体を通じて組織的に改善を図る取組になっている。

・取組ごとに結果を分析し，児童の実態にあった健康課題の解決に取り組んでいる。児童も自身の課題を捉え，ステップアップしながら継続的に改善を図る取組ができている。

・児童のやる気を引き出すために，興味・関心・意欲を高める数多くの工夫を仕組んであった。

（今後について）

・知識だけでなく実践力を身に付けることで健康課題に対する意識を高め，よりよい生活習慣を身につけていってほしい。地域で連携し中学校でも同じテーマで継続できるとより深まるのではないか。

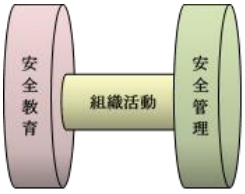
・生活習慣の改善は家庭との連携が必須であるが，家庭の意識や意欲に差がある。なぜ生活習慣の改善が必要か，改善したことによる効果等を継続して訴え続けることが重要。今後は保護者に向けて様々な視点での取組を期待する。

・取組でうまくいかなかったことの中に次年度の取組につながるヒントがあると思われる。子供たちの視点で見なおし，今後も学校全体で指導や支援を継続してほしい。

【指導講話】

「学校安全の充実に向けて」

講師　　広島県教育委員会事務局　豊かな心と身体育成課健康教育係
指導主事　　大名　克英　様



学校安全の活動は安全教育と安全管理から構成されており，相互に関連付けて組織的に行うことが必要である。安全教育とは，幼児・児童・生徒が自らの活動や様々な危険を制御して，自ら安全に行動し，他の人や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成する教育活動。安全管理とは，子供たちを取り巻く環境を安全に整える活動。学校安全に関する組織活動とは校内で協力的な体制を構築し，教職員の研修や家庭及び地域社会との連携を円滑に進める活動。この３つの活動が学校安全に関わる基本的な構造となる。

安全教育と安全管理は学校安全の両輪となり組織活動という軸でつながって，両輪が常に動いている状態をつくることが，学校安全を効果的に進めるために極めて重要なことである。

このことについて様々な実践事例等を挙げながら学校安全に係る基本的な考え方についてご指導いただきました。

〇送迎バス園児置き去り死亡事件を受けて

保育園送迎バスへ子供がとり残されてしまうという痛ましい事故が起きた。再発防止のために，スクールバスを利用している全ての学校を対象に安全管理ができているかどうか，緊急安全点検・実地調査が行われている。

安全管理に加え安全教育として，例えば，バスに閉じこめられた時は子供が自らクラクションを鳴らすなどバスの外に危険を知らすことができるよう指導を行うなど，子供の視点を踏まえた対策をとることが重要である。

〇安全は「危険や危機がないところ」を学ぶということ

危険や危機を直接学ぶだけでは，子供たちに危険だとか，危ないということだけを教えることになり，いわゆるマイナスメッセージとして伝わってしまうことがある。

実践発表にあった危険予知トレーニング等では，危険を見つけるというところにとどまらず，危険にならないようにするにはどうすれば良いか子供が自ら考え動き始めることが，危険や危機のないところの学びになる。

危険や危機のないところを学ぶためには計画が必要。学校安全計画は目指す子供たちの姿を明確にした上で，新たに取り組む必要のあることを入れ，改善していくことが重要である。

〇子供の視点で捉え直す

子供の視点で今一度安全教育・安全管理を捉え直す必要性がある。

子供向け防災ソング「こわがりヒーロー」（NHK制作）は，災害などの危険が迫った時，多くの大人は，「自分だけは大丈夫」という心の動き（正常性バイアス）がはたらいて，避難が遅れがちになってしまうが，子供たちが「こわい！」「逃げよう！」と声をあげることで，家族や地域の人たちの命を守るという内容の歌。

「子供が災害を怖がる気持ち」を逆手にとっており子供の視点が生かされている。安全点検等においても子供の視点を取り入れている学校がある。

〇新しいアイデアで面白い取組を

学校安全を充実させていくために，新しいアイデアで先生も子供達も面白がるような取組を共に創っていくことを今後期待している。

当たり前に行っている一斉に避難する避難訓練を変え，災害の状況に応じて生徒に避難経路を決めさせる避難訓練や修学旅行の行き先を岩手県釜石市に変更し被災地の新たな取組を学ぶ等，新しいアイデアでの取組がある。市町の教育委員会も巻き込んで取り組んでもらいたい。

〇文部科学省総合教育政策局　森本晋也　安全調査官の言葉より

事故や事件，自然災害が発生する日本。児童生徒等自身に「生き抜く」とともに「安全な社会をつくる」ための知恵と行動力を身に付けさせる安全教育が重要。つまり，「生き方」を学ぶ安全教育。

学校における組織的な安全管理の一層の充実を図り，安全で安心な学校施設等を整備するとともに，児童生徒等がいかなる状況下でも自らの命を守り抜き，安全で安心な生活や社会を実現するために主体的に行動する態度を育成する安全教育を一層推進することが不可欠である。